

## 登山の基本（登山のHow To） 山でのリスクマネジメント 野生を取り戻せ！

広島県山岳連盟 事務局長 松島 宏

山登りは野外（アウトドア）での活動であるので常に危険が伴う。だからこそ楽しいし、そこでの遊びは充実感を得ることができる。生きていることをまさに実感できる。

しかし、一步間違えば怪我をするし、最悪の場合、命を落とすことになる。生物は元々自然の中で誕生し、自然の中で活動してきた。ここ数百年、科学技術が発達し快適な生活が保障され、安心で安全な生活に慣れてしまっていて、自然の中での危機管理能力が落ちてきている。我々の祖先は元々、森の中、山の中で活動していたサルなのである。こども達を自然の中に連れ出し遊ばせれば、当然夢中になるし、中高年が登山にはまるのはごくごく当たり前の現象である。我々の原点に帰っているだけの話である。

先祖のサルと違い、我々は服を身にまとい、家というシェルターの中での生活が我々の自然の中でのリスクマネジメント能力を劣化

させてきた。所詮、登山者は野生を失ったサルなのである。サルは過酷な自然の中で様々なリスクを背負いながらろうじて逞しく生きている。

そこで、我々登山者である。サルの毛皮の代わりに機能性のある衣服を身に着けて山に出かけよう。雨に濡れて風に吹かれればサルでも体力のないものは命を落とす。我々はそんなときのためにシェルターを持参しよう。それはツェルト（簡易テント）でありシュラフカバーなのである。衣服は濡れても暖かいウール（羊の毛）にしよう。嵐や風雨、吹雪でも体温を奪われない、防水透湿素材のレインウエアや冬山用のヤッケを持参しよう。

サルのように一日中歩けるように体力をつけよう。これは山を歩いて身につけるしかない。サルのように岩場や岩壁を駆け上がるろう。これは練習するしかないし、落ちてもいいように、ロープ持参しよう。





サルは生まれつきの方向感覚や現在位置の確認能力を持っている。我々は地図と磁石や登山者用のナビ（GPS）を持参しよう。失った身体能力は道具や科学技術の恩恵でカバーするしかないのだ。

山で遭難しないように、山で命を落とさないように、失ってきた野生を取り戻そう。それが無理なら、道具や装備で補おう。

そんな危険な自然もサルの子孫の我々にはやはり魅力的であるし、都会にいれば山が恋しい。自然の中に入れば癒される。そんな自

然の中での遊びや冒険は絶対に楽しい。達成感や充実感は自然が過酷であればあるほど大きい。これがハイリスク・ハイリターンという麻薬である。山での冒険や探検は単純に楽しい。山での遭難が絶えなく、社会的には登山者が悪者扱いされているが、山を目指すということは自然回帰であり、人間回復の行為である。十分な準備や鍛錬をして山に出かけよう。「青年は荒野を目指す！」は正しい行為である。残された野生の感性を総動員して、山で遊び、無事に帰ってこよう。

（まつしま ひろし）

日韓高校登山部交流 恐羅漢山にて 2009年7月

